

第3期下京区基本計画 令和6年度の取組状況 について

令和7年3月

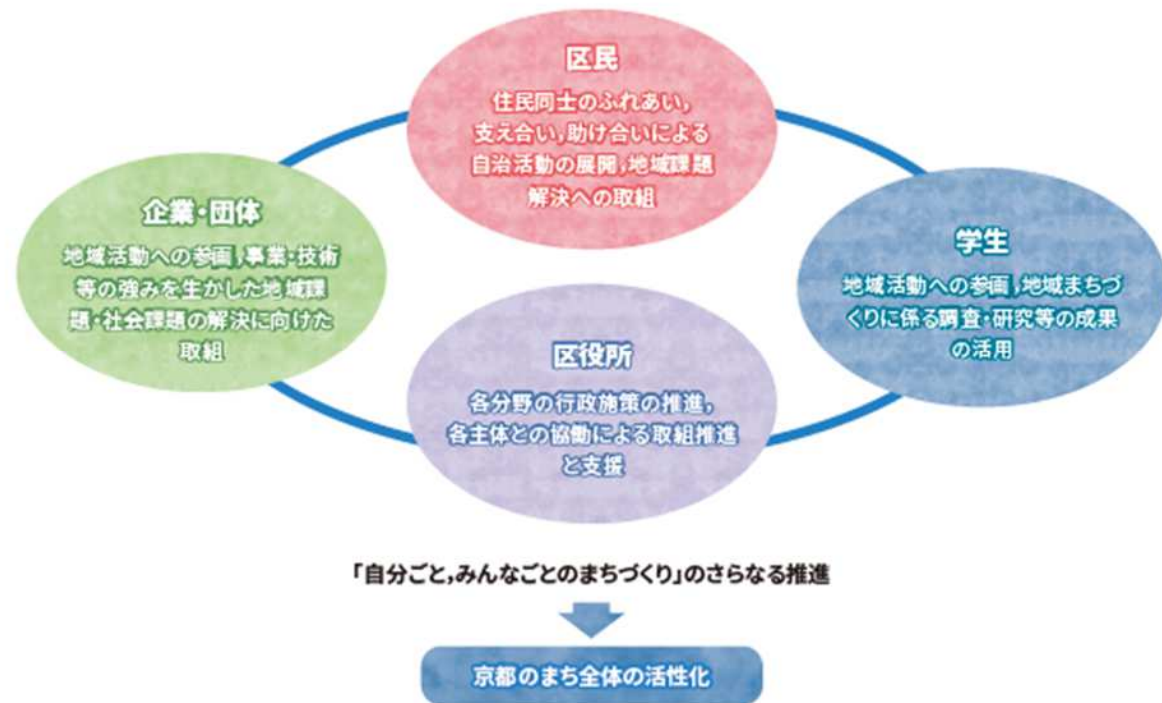
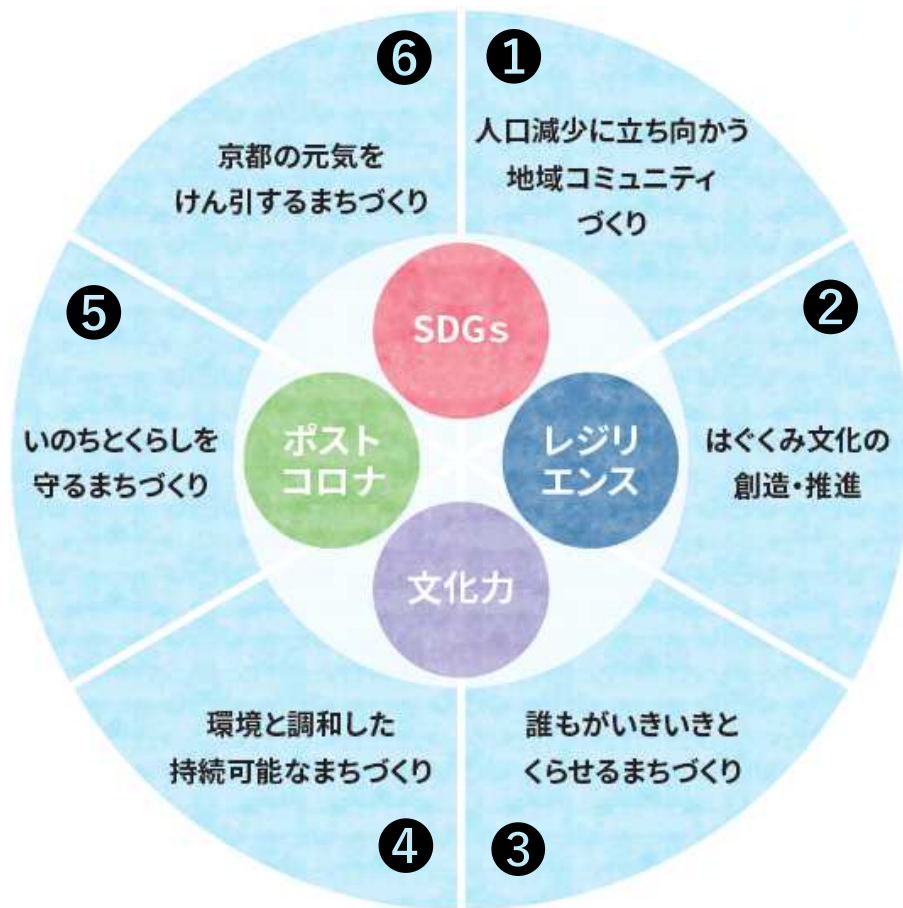


第3期下京区基本計画(令和3年度～令和7年)

重点戦略

計画の推進

区役所、区民、企業、団体、学生等がそれぞれの役割を果たすとともに、各主体が連携・協働して「自分ごと、みんなごとのまちづくり」を進めて、京都のまち全体の活性化に結びつけます。



下京区の現状・課題や現下の社会情勢を踏まえ、京都市基本計画に基づき、レジリエンス、SDGs、文化力、ポストコロナを分野横断的に捉え、区民の皆さんとともに進めていくべき政策分野として、**6つの重点戦略**を設定。下京区がめざすまちの姿の実現に向けて、14の「リーディングプロジェクト」と94の「取組例」の計108の取組を推進します。

計画の推進に当たっては、**下京区民まちづくり会議**で計画の進捗状況を報告・確認し、今後の推進施策等について議論します。

第3期下京区基本計画の各戦略に基づく主な取組

戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

地域コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域団体と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちをめざします。

リーディングプロジェクト

★地域の事業者や外部(NPO、大学等)の方が町内会活動に参加しやすいしくみづくり

○地域コミュニティ活性化支援施策

ICT技術の地域デバイドの解消を目指し、ソフトバンク社によるスマートフォン体験講座等を6回開催。町内会活動へのICTツールの導入を提案。

★まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」による社会・地域課題解決の推進

令和6年度は、区基本計画の重点戦略に該当する活動19件採択(一般枠15件、地域まちづくり特別枠4件)。子育て支援、防災、地域コミュニティの活性化など、幅広い分野の活動を支援。



推進施策

①まちづくりを担う人づくり

○成徳自治連合会の取組

「安心・安全 絆の町 成徳」をスローガンに、「アイビーフェスタ成徳(成徳区民つどいの日)」を11月に開催。学区民の制作作品の展示や子育て世代が交流できる「ママカフェ」、子ども向けのワークショップ、飲食ブースが設置され、子どもから高齢者まで多くの人々が訪れた。交流の場から、顔が見える関係づくり、地域の防犯機能・文化力・自治会加入率向上に取り組んだ。



○下京地域情報サイト等の運営

各学区からの情報や地域の魅力を発信するウェブサイト「下京地域情報サイト」を運営。京都駅周辺のまちづくりに係るイベント情報の発信等を行った。
また、区の公式Facebook及び公式Xを活用し、区の情報、魅力等を広く発信した。

②持続可能な地域コミュニティづくり

○区長Meet upの開催

9月に区役所と市協・自治連会長(25名参加)との懇談の場として開催。「担い手不足」をテーマに、講演会及び意見交換会(ワークショップ)を実施。



○崇仁まちづくり推進委員会の取組

コロナ禍で途絶えていた船鉾の巡行が、昨年度4年ぶりに復活。今年度も5月の崇仁春祭りで、船鉾の上に乗って崇仁の祭り囃子を演奏する、本来の形で実施した。
崇仁の祭り囃子が地域の子どもたちにより脈々と受け継がれ、9月の下京・京都駅前サマーフェスタ2024や11月に京都市立芸術大学内で行われた崇仁文化祭のオープニングでも披露。
今後も、お囃子という地域の資源を守り伝えながら、伝統芸術を核としたまちづくりに取り組む。



推進施策

○西七繁栄会の取組

京都市立芸術大学の学生が講師となり「西七条こども絵画教室」を開催。絵画教室での作品は、近隣小学校の児童による作品とともに商店街で開催した「西七条こども絵画展」で展示。また、商店街や地域の団体、大学生が企画する地域イベント「七条えんま堂まつり2024」の開催に併せて、大学生によるお絵描きワークショップなども実施。地域の歴史・文化を学ぶ機会の創出や、商店街を中心とした西七条の賑わいづくりに取り組んだ。



○社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会の取組

崇仁地域等に花壇を作り、地域の輪を広げる活動や、昨年度作成した「大きなピクニックマット」の成果報告会を近隣学区で開催。住み慣れた地域の歴史・文化、生活等を守り、継承することで、住民、地域、福祉施設、学校、児童館等が共に歩むまちづくりを目指した。



○下京区ふれあい事業

- ・グッジョブ！キッズフェスタin下京→戦略2で詳述
- ・人権月間事業→戦略3で詳述
- ・下京・南まちなかアート→戦略6で詳述
- ・キャンドルナイト梅小路「伝燈祭」2024→戦略6で詳述

○地域コミュニティアプリ「ピアッザ」

→戦略2で詳述

③社会・地域課題を解決するしくみづくり

○京都中小企業家同友会下京三支部との連携協定の推進

- ・グッジョブ！キッズフェスタin下京に同支部が協力（4体験メニュー出展）→戦略2で詳述
- ・月1回の昼食会で区役所から情報提供、同友会の例会に区職員が参加、両者の定期的な意見交換会を開催→戦略3で詳述
- ・下京地域会例会開催に向けた協力
下京地域会において定期的に開催される例会において、11月に「これからの地域づくり、私たちができること」をテーマに開催。当日実施されたパネルディスカッションでの取組発表者の選出や、広報に協力。

戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

地域や支援機関、企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ、素晴らしさをともに感じながら、地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にすることで、安心して子どもを生み育てられる環境づくりによる移住・定住促進、はぐくみ文化の創造・推進を図ります。

リーディングプロジェクト

★団体、企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「下京みらい数珠つなぎプロジェクト」の推進

ウェブサイト「下京子育て応援情報」で子育て支援に取り組む参加団体等の子育てイベント情報を発信。

また、地域の主任児童委員が、妊婦や赤ちゃんが誕生した家庭に子育て支援情報を届ける「下京赤ちゃんねっと事業」の周知を強化し、申込み者数が増加。初回訪問では、下京区の風呂敷メーカーと共同開発した子育て支援風呂敷をプレゼントしており、京都の生活文化とエコの精神に触れていただく機会としてPRしている。



★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施

○グッジョブ！キッズフェスタin下京(ふれあい事業)

(京都中小企業家同友会下京三支部・区内事業者と連携)

小学生が、体験をとおして楽しみながら「お仕事」や「伝統文化」を身近に感じることができるイベントを11月に実施。体験メニューは7種類で約130名が参加。

- ・亀屋良長株式会社:和菓子のお話、京菓子手作り体験
- ・有限会社竹笹堂:木版画のお話、木版で絵葉書作り体験(京版画)
- ・京都中小企業家同友会下京C支部:グラフィックデザイナー体験(パソコンとグラフィック作成ソフトを使ってオリジナル缶バッジを作ろう)等



推進施策

①子どもと家庭をオール下京(区民、事業者、行政等)で育む環境づくり

○下京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会の取組

「子ども・若者の今と未来のために大人として何ができるか」を共に考え、行動する市民ネットワーク。今年度は、下京青少年活動センターでのワークショップ(「子どもたちのエコ活動って？みんなで考えましよう！」)、学校歴史博物館での講演と見学会(「京都市学校教育のうつりかわり みんなで考えましよう！」)等を開催。



○地域コミュニティアプリ「ピアッザ」を活用した交流促進

アプリを活用し、ユーザー同士の子育てや地域活動等の情報交換の推進、区政情報の発信を図った(下京区・南区エリアユーザー登録者数約2,900名)。

11月には、修徳児童館の「にじいろマルシェスペシャル2024～こどもばんぱく～」に「きてみて！ピアッザ」館をブース出展し、80名以上の親子が来場。ブースでは地域のおすすめ情報交換や、子ども服・本(下京図書館)のお譲り会、地域を知るワークショップ(クイズ・ぬりえ)、座談会を実施。子育て世代の交流促進やリユースによるSDGsの推進に加え、地域の魅力を知る機会を創出した。



推進施策

○街仲ふらっとサロン この取組

子育て世代の息抜き場や、子どもたちの体験の場を作ることを目的に、ふらっと立ち寄れるサロンを5回開設。「世界のゲームで遊ぼう!」や「和綴ノートを作ろう」など、各回でテーマを設定。お茶を飲みながらゆっくり相談したり、体験したり、つながりを持つたりすることで、子育て層の孤立解消につなげる。



○特定非営利活動法人京都子育てネットワークの取組

産後母子の支援として、母子が共に過ごすことのできる「デイスティ」を今年度4回実施。子育ての仲間づくりの場や子育てのヒントを得られる場の提供も目指す。



○有限会社オーバーサンプの取組

1～2歳の子どもとそのママ・パパ向けの家族で楽しめるだっこダッチワークショップを開催する。子育て世代のコミュニティの創出や安心して過ごせる居場所を提供することで、楽しく安心して子育てできる下京区の推進を目指す。



○株式会社和えるの取組

0～3歳児が日本の伝統に触れる機会が少ない等の声があることから、伝統産業を通じた子育てが楽しくなる親子向けイベント開催。日本の伝統を取り入れたベビーリトミックと、伝統産業の職人が製作したおもちゃを使った遊びにより、日本の伝統への愛着を形成し、京都ひいては国全体の伝統産業の活性化を目指す。



②特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

○児童館、つどいの広場、子育てサロン

児童館やつどいの広場など子ども、若者、子育て中の親子が気軽に集い、情報交換できる場を運営する機関や団体との連携・支援に取り組んでいる。

今年度は、11月の民生児童委員児童福祉部会において、「子育て世代を地域で支えるために～児童館から見える親子の姿～」をテーマに、区内の児童館館長の講話、つどいの広場の紹介、民生児童委員との交流・情報交換の場を設けた。

戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくり

世代や分野を超えてさまざまな人や団体等が連携し、住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく、生きがいを持ち、健康に安心して暮らし続けることができるとともに、互いに違いを認め合い、支え合う地域社会、人権文化を構築すること等を通じて、都市のレジリエンス向上を図ります。

リーディングプロジェクト

★「フレイルと生活習慣病の予防」による「健康長寿のまち・下京」の推進

○健康まつり(下京区、南区合同実施)

「のぼそう健康寿命! つなごう地域の輪」をテーマに健康にちなんだ川柳を募集し、優秀作品を「すこやか大賞」として表彰。併せて、健康講演会を同時実施。(10月)



○地域における健康づくり事業

- ・京都中小企業家同友会下京三支部の昼食会と連携した健康づくりミニ講話を実施(6月)
- ・七条社会福祉協議会と連携した「減塩と野菜摂取」に関する教室の開催(9月)
- ・シルバークラブと協働で「ヘルス&ビューティーセミナー」実施。フレイル予防体操を紹介(10月)
- ・長寿すこやかセンターとの協働で「フレイル予防と感染症予防」に関する講座を開催(11月) 等



推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

○「人権月間事業」開催(ふれあい事業)

12月の「人権月間」に合わせ、「性の多様性」をテーマに、コントラバスとピアノによる演奏会&トークショーを開催。約140名が参加。
・コントラバス・ピアノ演奏会&トークショー
「染色体XYZ」

(出演者:Juvichan(ジュビチャン/ジュビレーヌ・イデアラ氏)
コーデリア・ナカヤマ氏)



○下京こころのふれあいネットワークの取組

(下京民生児童委員会、下京区地域女性連合会、下京保健協議会連合会、下京区シルバークラブ連合会、下京区社会福祉協議会、下京東部・西部医師会と連携)

こころの病や障害についての理解を深め、こころの健康への市民の関心を高めるとともに、地域で生活するこころの病がある市民の方への支援活動を行うための地域組織(ネットワーク)を運営。11月に講演会「こころの病のある人を含む家族とともに歩む」や、区役所で作品展示を実施。現在、「下京・南まちなかアート」の一環として、ホテルエミオン京都で作品を展示中。



推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

○特定非営利活動法人クリエイター育成協会の取組

福祉事業所の利用者の方々が培ってきたITスキルを発揮する場として、梅小路エリア周辺を題材にした謎解きイベントを制作・実施。徒歩で散策して得られた情報を基に謎解きに挑戦する地域散策型イベントを実施することで、下京区内外の方に地域の魅力を再発見いただくことを目指す。

事業所利用者の方々に対しては、実務的な作業だけでなく、イベントに関するチラシの設置依頼を通して、地域の方々との交流の機会も創出した。



○近畿街おこし実行委員会の取組

下京区の個人店と若者を繋ぐイベントや講座を企画・開催。若者と、地域の個人店や地域の方々が顔見知りとなって相互理解を深め、若者の生きづらさやメンタルヘルス、その関わり方に対する正しい認知を広げる。



②人生100年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ、活躍できるまちづくり

○食育セミナーの開催、食育指導員への活動支援

○お口からはじめる生活習慣病予防教室の実施

「京都市健康長寿・口腔保健・食育推進プラン」に基づいた栄養、食生活に関する適切な知識及び実践の普及啓発を実施。今年度は食育セミナーを10回開催。また、「骨粗鬆症予防教室」において、栄養と歯科の講話を1月に開催。

○各種スポーツ大会の実施

住民の健康増進、体力の向上、地域コミュニティの活性化に向けて、下京区体育振興会連合会が地域において各種スポーツ大会を実施。

・下京区民グラウンドゴルフ大会(R6.5.26/37チーム(約150名))

・第70回下京区民ソフトボール大会(R6.6.2/4チーム(約50名))

・チャンピオン大会(女子バレーボール)下京区予選(R6.7.7/9チーム(約90名))

・下京区民ニュースポーツ大会(モルック)(R6.11.24/12チーム(約40名))、ボッチャ体験会 等



戦略4 環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の目標達成に向け、ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換、環境問題を解決するイノベーションの促進、生物多様性の保全を学ぶ機会の創出や環境に配慮した実践活動の担い手育成等を通じて、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

リーディングプロジェクト

★地産地消や自然・生物との共生の大切さ、地球温暖化対策、
ごみ減量等について学ぶ機会の創出、環境保全の担い手づくり

○特定非営利活動法人使い捨て時代を考える会の取組

「修理＝リペア」を身近にする「リペアカフェ」、不用品を他の方に譲る「くるくる交換会」等を開催し、「SDGsに配慮する」、「使い捨てない」、「環境を壊さない」ことに興味を持ってもらうことで、SDGsの実現を目指す。



○「ベアーズウッド」で椅子を作ります 京都の木を使って地元の山や木のことを学ぶワークショップの開催

国宝や重要文化財、社寺などの修復に使われる「漆」の精製を行いながら、その漆を通じて人と自然、人と工芸をつなぐ活動にも取り組む区内事業者等と連携し、市内産木材を使用したワークショップを開催。15名が参加。林業・木材産業の役割（資源の循環利用）への理解を深め、持続可能な森づくりやモノづくりについて考える機会を創出。

※ 京都府豊かな森を育てる府民税活用事業



推進施策

①徹底した省エネやごみ減量、脱炭素社会に向けた取組の推進や 門掃き、打ち水など、京のまちに息づく生活習慣の継続

○エコ学区サポートセンターの取組

下京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会の方々に対し、2050年CO2排出量正味ゼロの実現に向け、「子どもたちのエコ活動をどうサポートするか」をテーマに、「子どもたちのエコ活動って？みんなで考えましょう！」を、「2050年CO2ゼロ『どこでもトーク』」の一環として開催。

○南部まち美化事務所の取組

- ・「ピアッツァ」交流イベント内の「お譲り会」に、子ども服を提供。
- ・区役所を会場として、マタニティウェアやベビー服などのリユース会を開催。

資源の有効活用やごみの減量を図るとともに、子どもを安心して生み育てる環境づくりの推進に寄与した。



○資源物回収の取組

下京エコまちステーションや地域の集団回収、商業施設などで、16品目の資源物の回収を進める。

- ・使用済天ぷら油(区役所含む)39拠点
- ・乾電池(区役所含む)5拠点
- ・蛍光管(電気屋16ヶ所含む)19拠点
- ・コミュニティ回収事業167団体
- ・移動式拠点回収(有害)10回開催
- ・移動式拠点回収(まちかど)84回開催



○地域における清掃活動

「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会」など、地域で活動する団体による定期的な清掃活動の実施。

戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

区民・事業者・行政等の一層の連携強化、一人一人の防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組み、災害に強いまちづくりを推進します。また、防犯・防火活動、交通安全対策を継続して実施し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心安全にらせるまちづくりを推進します。

リーディングプロジェクト

★工夫を凝らした防災啓発の推進(楽しみながら学べる防災訓練プログラム(体験型防災ゲーム)、防災・福祉まち歩き会、減災カフェ、避難所運営ゲームなど)

○有隣学区まちづくり委員会の取組

学区民の誰もが安心して避難生活を送ることができる、「みんなの避難所」の仕組みや運営体制づくりを目指す。妊婦、乳幼児連れの親、ペット連れの家族等の避難についてワークショップを行い検討。避難所作りの機会を広く普及させ、学区全体の防災意識向上に取り組む。

また、災害時に地域と宿泊施設とが連携する取り組みとして、学区内のホテルと「大規模自然災害発生時における施設利用等の協力に関する協定」を締結。

○醒泉まちづくり委員会の取組

昨年度改訂した「避難所運営マニュアル」をもとに、避難所開設訓練(受付編)を実施。また、防災まちあるきや、醒泉版HUG(避難所運営ゲーム)、マンション防災の観点から、マンション住民等を対象とした減災カフェ「段ボール窯でpizza作り」等を実施。



○菊浜まちづくり推進委員会の取組

「避難所運営マニュアル」に基づく夜間を想定した避難所開設訓練や、防災・福祉の観点からまちの現状を把握する目的での地域住民と各団体の長を中心としたまちあるき、地震時に危険性が高い箇所の確認、自閉症・認知症発症など介護を必要とする被災者への声掛け訓練を実施。



推進施策

①レジリエントな地域づくりに向けたオール下京(区民、事業者、行政等)で取り組む地域防災力の向上

○ICTの活用(有隣学区、醒泉学区)

- ・有隣学区スマホ版防災マップ(有隣学区まちづくり委員会)
避難所の場所や地域の集合場所、消火器の位置などをスマートフォンで確認できるようにしておき、災害時の避難行動に役立てる。
- ・醒泉学区避難報告シート(醒泉まちづくり委員会)
大規模災害時、学区内の被害状況を速やかに把握するため、地域の集合場所から携帯電話・スマートフォンで避難報告シートにアクセスし状況報告できるように、避難報告シートの二次元コードを表示した「地域の集合場所」プレートを各町内に設置。当該仕組みを活用した訓練を実施。

○下京区総合防災訓練・学区防災訓練の実施

学区で実施する防災訓練に、消防署及び消防団も参加し、救命道具(AED)の使用方法、消火器を使った初期消火訓練等を実施。自主防災会との連携を図った。



推進施策

②下京にくらす人、働く人、訪れる人、学ぶ人、誰もが安心・安全にくらせるまちづくりの推進

○安心安全ネット継続応援事業の推進

学区において実施される防犯、防災、交通安全、子ども見守り活動等の取組に対し事業費の一部を補助する事業で、令和6年度は7学区（開智、格致、七三、植柳、崇仁、醒泉、豊園）を支援。

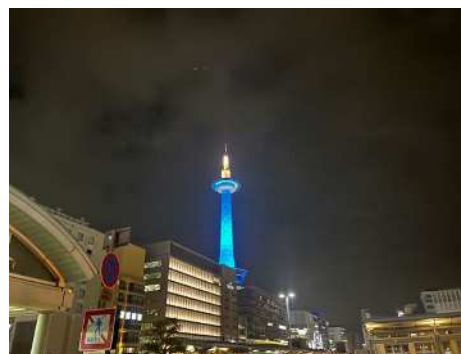
○防犯啓発活動

警察、地域防犯推進委員、事業者と連携し子どもからお年寄りを対象に幅広く防犯啓発を行う。
大内学区の防犯推進委員を対象に、警察と連携した防犯教室を実施。
また、防犯推進委員と連携し、特殊詐欺防止啓発、防犯啓発も実施。
3月には、防犯講演会を開催。



○青色防犯パトロールの実施 (地域、下京警察署、区役所で連携)

- ・偶数月に警察、地域と共に青色防犯パトロールを実施。
- ・毎月14日に下京区役所単独で青色防犯パトロールを行い、合わせて京都タワーのライトアップ及び京都駅自由通路で啓発画像を掲出。
- ・12月に、下京警察署にて青色防犯パトロール出発式を実施。



○各季全国交通安全・交通事故防止運動行事の開催 (下京区交通対策協議会、下京警察署、区役所で連携)

官民一体となり、各季全国安全運動期間等に啓発イベントの開催や、市域一斉啓発活動日に街頭啓発活動などを実施。

- ・各季全国交通安全・交通事故防止運動行事・啓発活動 3回開催
(梅小路公園、下京区役所、東本願寺前市民緑地「お東さん広場」)
- ・下京警察所、各学区交対協と区内小学校等との共催による交通安全推進の普及啓発
- ・特定非営利活動法人グッドドライバーレッスン等との共催で、高齢者ドライバーを対象としたイベントを実施。

戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり

起業家やクリエイティブな人々・企業を呼び込み、文化と経済の融合、異分野との交流によるイノベーションの創出、スタートアップ・エコシステムの形成を加速させるとともに、地域文化の継承・発展につながる観光推進等により、持続可能な地域経済の好循環を生み出し、京都の活力をけん引する創造的なまちづくりを進めます。

リーディングプロジェクト

推進施策

★下京区の東西エリアが交流・融合する「クリエイティブエリア」の創出 ①世界に羽ばたく起業家を支援する「スタートアップの聖地・下京」の推進

○京都試作センター(株)の取組

子ども向け体験型ワークショップを「Umekoji MArKEt」で開催。「レーザー加工と鏡面磨き」と「かんたんプログラミング」を実施し、製造業への興味を引き出し認知を広げることで、京都のものづくり文化の活性化を目指した。



○京都寄り道推進室の取組

循環フェスと連携したストリートスナップ等のフリーペーパーを作成。対面イベントとして松原通写真展を実施。下京区のローカルな魅力を若者に伝えることで関係人口を創出することを目指した。



○合同会社TSUKUMの取組

小中学生を対象とした、マインクラフトを使って化学の基本を楽しく学ぶワークショップを開講。子どもたちの科学への興味や、「まずは実験して試してみる」といった考え方を持つきっかけを作ることができた。



推進施策

②京都芸大移転を生かした芸術活動と地域・生活文化の融合

○下京・南まちなかアート(ふれあい事業)

3月1日～3月20日、まちなかのさまざまなスポットを訪れながら、アート作品や演奏など身近に芸術に触れられるイベントを実施。当該イベントを実施することで、文化芸術を基軸としたまちづくりの推進を目指す(南区と共同実施)。



○七条商店街振興組合の取組

令和5年度から、京都市立芸術大学生や卒業生が、日常でも使いやすい作品等を七条商店街の松屋製菓様の店内を一部お借りし販売するアンテナショップ「ノキサキ」を実施。令和7年2月に京つけもの西利本店様に移転し、リニューアルオープン。

○京都市立美術工芸高等学校とJR西日本の連携

同校において、JR西日本及び本市と連携し、オーバーツーリズムにおける課題の解消に向け、京都駅の課題を解決する探究活動を開催。5月に京都駅でのフィールドワークを実施し、6月に生徒が考えた課題解決策をJR西日本及び本市に提案するプレゼンテーションを行った。

○京都市立美術工芸高等学校と梅小路みんながつながるプロジェクトの連携

同プロジェクトの活動趣旨や参加企業・団体について、市民や観光客の皆様に広くPRを目的とした活動告知看板を、同校生徒がデザイン協力。梅小路小学校とも連携。

推進施策

③地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

○梅小路みんながつながるプロジェクト (JR西日本ほか50団体が連携)

梅小路エリアの回遊性の向上・賑わいづくりを目的に、季節ごとのキャンペーン等を実施。梅小路エリアを安心して楽しく回遊していただくため、合同清掃活動やエリア内の環境整備事業を実施。



○キャンドルナイト梅小路「伝燈祭」2024(ふれあい事業)

(主催:梅小路エリアの6施設(UGK))

共催:ふれあい事業実行委員会、区役所が連携)

10月、梅小路エリアへの誘客等を通じて下京区の活性化に取り組むことを目的に「灯り」をテーマとしたイベントを実施。各会場に区内の保育所、幼稚園、児童館の皆さん等が描いた、絵やメッセージ入りの行灯を展示(約1,500基)。京都市立芸術大学生による音楽演奏も行った。



○下京・京都駅前サマーフェスタ

(西本願寺、東本願寺、興正寺、京都駅ビル開発㈱、下京区役所)

まちの賑わいづくりを目的に8月～9月に開催。京都駅ビル駅前広場での「ステージイベント」、西本願寺での「本願寺納涼盆踊り」、渉成園での京都市立美術工芸高等学校「若きデザイナーたちのスカート展」等を実施した。



○特定非営利活動法人Knit-kの取組

お東さん広場で、出店者による書籍の販売等を11月に実施。本を介した多様なコミュニケーション及び賑わいを創出することにより、下京区の文化資源の再認識と地域活性化を目指す。



○『崧』(yoroko[bi])実行委員会の取組

中央卸売市場第一市場周辺事業者を中心として、七条七本松周辺の新旧事業者が食を通してエリアの価値向上を図るマルシェを5月・10月に行った。あわせて、子どもが果物と触れ合えるイベント等も開催。内外との交流機会を創出し、“衣食住観労”が体験できる地域を目指す。



④地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

○七条商店街振興組合の取組

お東さん広場で、自然との一体感を味わうアウトドア・アクティビティ「七条商店街ツリークライミング」を4月・3月に開催。魅力ある商店街・地域の賑わいを発信するとともに、参加されたお子様に、自然を大切にする気持ちの大切さを伝えることを目指した。



交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクト

オープンな交流促進を行う「交流会」

まちづくり活動を行う学生や事業者・地域団体等の連携促進等を目指した「交流会」を9月に実施。さらに、テーマを絞った「分野別交流会」を3回実施。3月には、今年度の活動報告等を行う「報告会」も実施した。

交流会・報告会

○交流会

「SHIMOGYO+GOOD」令和6年度採択団体や区内のまちづくり活動実施団体、金融機関など約40名が参加。各自の取組の紹介や課題を共有しつつ、知恵や経験をシェアするワークショップを実施。



○報告会

「SHIMOGYO+GOOD」採択団体及び学生など若い世代による地域に根差した取組の活動報告、分野別交流会での取組共有、次年度の活動に向けた「つながり」を生み出す場として報告会を開催。約30名が参加。
これまでの成果を共有するとともに、今後の展開について意見を交わすワークショップを実施。



分野別交流会

○若者を巻き込んだ運営方法を学び考える交流会

若者を巻き込んでいる取組事例を聞きながら、若者が地域の活動に参加するきっかけ等について、参加者がゆるやかに意見交換等をする交流会を開催。7名が参加。



○子育て×地域～まちで見つける！子育て中のあったらいいな♪～

交流を通して、「子育てしやすい理想のまち」を考える交流会を(株)ウエダ本社にて開催。9名が参加。



○みどりでつながる交流会

みどりに関わる取組をされている団体・企業の方等、下京区内でみどりをテーマに異なる領域で活動をする方々がつながるきっかけになるような交流会を開催。10名が参加。



交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクト

伴走支援の実施

「SHIMOGYO+GOOD」採択団体だけでなく、令和5年度の「下京ローカルグッド」(※)参加者による、地域に根差した活動への伴走支援を実施した。

(※) 区基本計画の推進を強化することを目的に、学生・若手社会人が、まちの人に出会い、まちの人の想いに触れて、課題解決に向けたアクションプランを企画・提案するもの。約20名が参加。

○お寺プロジェクト

「学生と地域の接点づくり」を目的に、お寺を活用したイベントの実施に取り組む。7月に龍岸寺での写経イベントを実施。写経体験ができるお寺を紹介するフリーペーパーを作成。



○祭りプロジェクト

「地域のお祭りに若者が関われる仕組み(体制)づくり」を目指すもの。地域のお祭りを見学・地域の方のお声を聴くことで現状把握を進め、仕組み(体制)づくりの検討を進める。下京区内での夏祭りの手伝いや、4学区においてヒアリングを実施。



○空き家プロジェクト

空き家・町家を活かした3世代交流の機会作りに取り組む。令和6年3月の交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクトの「交流会」がきっかけとなり、6月に九条湯(南区)において昔遊びの体験イベントを実施。

その後、京都市内の多世代交流の場を視察。それらの場づくりの様子を参考に、実際の空き家を使って2月にワークショップを実施。

